

平成 22 年 9 月

＝ 発 行 ＝

秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

TEL : 018-865-1171

FAX : 018-824-1799

E-mail : sgcen002@mail2.pref.akita.jp

編集担当 : 社会教育アドバイザー

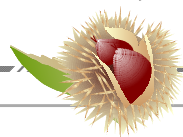


# 虹色

猛暑続きの夏もやっと過ぎ去り、実田は黄金に輝く収穫の季節を迎えました。この時期の稲田の美しさを堪能できるのは、稲作地帯に住む者の特権です。天然マイタケなどでだしを取ったきりたんぼ鍋が楽しみです。

今年の夏は、熱中症で倒れ命を失った高齢者も多く心が痛みました。体温の上昇と水分不足が人の命を奪うという恐さを、心に深く刻んでおきたいと思えます。

猛暑の夏は、森に棲む動物のえさ不足を招いたようです。野生動物が民家周辺にも出没するようになり被害の報告もあります。私たち人間に、自然保護への警告を発しているように思えてなりません。



## キノコの不思議を学んで、菌の植え付けを体験！

9月10日（金）美の国れんけいカレッジ「不思議！キノコゼミ」の1回目が森林技術センターで開催されました。主任研究員の菅原冬樹先生からキノコ栽培について学び、「きのこ菌」の植え付けを体験しました。受講者は、自宅で菌床を培養しながらキノコ栽培を体験しているはずでした。

秋田県では、シイタケの生産額がお米に次いで2位となり、リンゴの上位にランクされていることを知り、驚かされました。（受講者一同も驚きの声あり！！）。森林技術センターの研究が、秋田の産業に大いに貢献していることが実感されました。

2回目は、9月24日（金）に、秋田県生涯学習センターで開催されました。キノコについての知識を深め、おいしいキノコの見分け方を学びました。

キノコは、グルニル酸といううまみ成分を多く含み、植物繊維も豊富で、日光に20分～30分当ててから調理するとビタミンDも多くなり、優れた健康食品であることを学びました。特に、秋田県産のキノコは、安全性が高く、安心して食べることができるということでした。



菅原先生の講話



きのこ菌の植え付け体験



そぼ降りて秋風日ごと白くなり  
 畳なづく久保田城下の稲穂かな  
 墨擦りて手本に向かう無月かな  
 武藤 四郎 作



### お知らせ



（※申し込み） TEL 018-865-1171

あきたの食の未来を見つめる

「なるほど！フードゼミ」

10/8 10/15

10/22 10/29

会場：秋田県生涯学習センター

生涯学習ボランティア研修会

「ボランティアのススメ」10/23

・基調講演「創年のススメ～お誘いボランティアに見る生涯学習～」

・パネルディスカッション

会場：秋田県生涯学習センター



## 子育ての喜びと不安



平成22年3月 ベネッセ「幼児の生活アンケート」より

首都圏の保護者約3500人の回答によると、「早寝早起きの傾向は進んでいるが、近所の友達と遊ぶ機会が少なくなってきた」という結果が出ています。アンケートの中から、子育ての喜びと不安について紹介します。

### <肯定的な感情> 「よくある+ときどきあるのポイント」

- ・子どもがかわいくてたまらないと思うこと・・・・・・・・・・97.9%
- ・子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだと思うこと・・・・・・・・93.3%
- ・子どもと遊ぶのはとてもおもしろいと思うこと・・・・・・・・92.3%
- ・子育てによって自分も成長していると感じること・・・・・・・・78.9%
- ・自分の子どもは結構うまく育っていると感じること・・・・・・・・77.6%

### <否定的な感情> 「よくある+ときどきあるのポイント」

- ・子どもが将来うまく育っていくかどうか心配になること・・・・・・・・62.5%
- ・子どもがわずらわしくていらいらしてしまうこと・・・・・・・・56.3%
- ・子どもに八つ当たりしたくなること・・・・・・・・55.8%
- ・子どものことでどうしたらよいか分からなくなること・・・・・・・・54.7%

子育てに喜びを感じている反面、子育てに不安を抱いているという結果が出ています。特に、子育てについての不安は、働く母親に増加傾向がみられるようです。

以前の子どもは、地域の中で自由に遊びながら冒険心やチャレンジ精神、自主性や自立心、社会性などを自然に身につけてきました。しかし、最近は、地域が子どもの遊び場になっていないようです。「育ちにくい」そして「育てにくい」環境が生まれています。

親を叱咤激励するよりは、親に寄り添って育児を支援することが求められる時代になったと思います。親の心の内をよく捉えた上での支援が必要になってきました。

子育てに不安を抱いたときは、だれかに相談してほしいと思います。孤立していると不安が高まります。父親や家族の協力、周囲の母親同士の情報交換、父親&母親のワークライフバランスが大事です。秋田県においても、同様の傾向が見られるのではないのでしょうか。



## 「子育てサークル・子育てネットワーク」について



多くの子育てサークルが全国で活発に活動しています。活動の目的は、「子どもを集団に慣れさせたい」「話し相手がほしい」「子育て情報を入手したい」が上位を占め、子育てサークル活動が有用であることが分かります。

今、「子育てサークル」が「子育てネットワーク」に発展する動きが見られます。公民館や学校、行政、保健センター、幼稚園、保育所などと連携しながら子育てや家庭教育支援事業を展開するようになってきました。市民を核としたネットワークは、地域で子育てをする親のニーズにマッチしたきめ細やかな事業を企画することが可能になります。ネットワークづくりのために公民館が下記のような大きな役割を果たしています。

- ① 子育てサークルや子育て支援グループがつながるきっかけづくり
- ② 活動場所の提供や定期的な情報の提供
- ③ サークル活動の相談やアドバイスで潤滑油のような役割
- ④ 公民館まつりや親子事業、子どもまつりの共同企画などで、形の見える共働の場の提供



公民館は、家庭教育、子育てを支援する人材を育てる循環型人材育成のシステムを内蔵しています。また、公民館は、子どもだけでなく若い人も高齢者も女性も男性も、地域に暮らすだけでもが学習のために利用できる施設ですから、世代を超えて人がつながる場にもなります。つまり多様な人を結びつける拠点、地域の子育て教育支援に地域住民を巻き込む場になるのです。子育ては、小学校や中学校に入学すれば終了するものではありません。地域の中で子どもの成長に応じて継続的に寄り添う場として公民館のもつ存在の意味は大きいです。

(月刊「公民館」9月号 独立行政法人国立女性教育会館特別寄稿より)